

農林水産研究開発方針（素案）に対する委員意見への対応

※1：No. 斜字は 2 月開催時の意見

※2：()内は参考とする部分

No. ※1	委員意見内容	対応等	反映 [○] -ジ ^{※2}
1 改訂の背景			
1	「ウイズ・ポストコロナ」について ・どこにかかるのかあいまい ・正しくないカタカナ表現はやめるべき	「新型コロナウイルス感染症の終息後を見据え」と修正	1
2	「やまがた森林ノミクス」が、用語として適切かどうか	注釈を追記	1
3	病害虫の発生様相の変化だけでなく、従来見られなかった動物、雑草等にも触れてはどうか	病害虫等と表現を修正	2
4	背景に「ICT、ロボット技術、AI・・・の導入と活用を進める」とあるが、各分野も同様の記載であり、具体的に方向性が示されていない部分がある。ICT、ロボット等の技術を活用してどのように研究を進めるのか整理して記載してほしい	具体的な内容は、研究課題の設計時に対応する	2 13 14
2 研究開発の方向性			
5	輸出に対応した育種の研究開発が必要	輸出も視野に入れた品種開発と記載	3
6	リレー出荷が可能な品種構成を意識した品種開発が必要	(1)アで「早生～極晩生」と追記	3
7	水稻極晩生種の開発が必要		
8	端境期に出荷できる野菜・果実の品種開発に取り組んではどうか	既存品種と収穫期の異なる品種の育種を実施中	-
9	なぜ中山間地域向けの早生品種の開発が必要なのか説明を加えたほうがよい	説明を追記	4
10	最上地域に適した大豆の早生品種がないか	大豆優良品種の選定について記載	4
11	一般消費者向けのおうとう品種開発	園芸分野で、生活スタイルの変化に対応した多様な品種の開発について記載	4
12	牛の受胎率を高めるための手法の検討	種雄牛等の遺伝的能力評価、受精卵注入操作手法の開発について記載	5 7

No.	委員意見内容	対応等	反映 ページ
13	オ 水産分野の記述全体は、品種開発後の内容なので記載箇所が合わない	記載箇所を変更し、別項目を追記	5 9, 10
14	エリートツリーについて、早生樹種の開発と思うが「積雪地における」という文言を入れてほしい	エリートツリーとは品質が良く、積雪地帯でも初期成長に優れた品種であり、耐雪性も持ち合わせたものであるため変更なし	5
15	・ 中小規模、中山間地におけるスマート農業の推進が必要 ・ ICT技術の中山間地への導入を進める必要	経営規模に応じた技術開発については記載済み、中山間地での推進手法について記載を追加	5
16	大豆の収量、病害虫への対応技術が必要	大豆の効率的作業体系や病害虫防除、安定生産技術、雑草防除について記載	6 8 11
17	食の安全環境分野の記載が、省力・収益性についてのみになっている	「収入向上を目指す技術開発」の項目での記載のため変更なし	6
18	園芸分野の「超省力・低コスト」の具体的な内容が不明	新樹形の導入、ICTを利用した環境制御や機械化体系等と記載	6
19	園芸分野の機械化、省力化技術の開発について、女性でも動かしやすい機械の設計を希望	機械開発は行っていないが、機械を利用した栽培体系等の開発を実施していく	6
20	スマート林業技術導入による労働環境改善について、「ドローンを用いた除草剤散布による下草刈り労力軽減」を入れてほしい	「スマート林業技術導入による労働環境改善」の中で個別要望課題として検討していくため変更なし	7
21	ICT技術を用いた低コストな水稻の増収技術開発は、供給が求められる分野等を見極めて計画すべき	海外市場を見据え、ターゲットユーザーに対応した品質等を確保する低コスト栽培技術の確立について記載	8
22	外食産業向けで需要が高い「種子・果皮なしの冷凍果実」等、ニーズに合った加工品の開発をお願いしたい	研究ニーズを把握するための研究開発要望の収集について記載	(8) 16
23	加工分野の「未利用資源」とは何か	具体例を追記	8
24	園芸分野の国際競争力を高め食味を高水準に保つ栽培技術については、栽培技術よりも収穫後の鮮度保持等により維持するものなので表現を変えてはどうか	表現を修正	9

No.	委員意見内容	対応等	反映ページ
25	畜産分野の「地域飼料資源」とは何か	具体例を追記	9, 12
26	SDGsへの貢献、ゼロカーボンやまがた2050に関連して、農業分野における具体的な取組はどのようになっているか	持続性の高い環境保全型農業や環境への負荷軽減を目指した技術開発を進めると記載	10
27	有機野菜だけでなく、有機稲作にも取り組んでほしい（国では耕地面積の25%を有機にする目標：みどりの食料システム戦略）	これまで水稻有機栽培の研究開発に取り組み、「手引き」を作成して（H29）普及に移しており、今後も現場のニーズに応じて個別技術の開発に取り組んでいく	11
28	有機栽培に取り組むためには、薬剤に代わる土壌消毒技術が必要	環境負荷軽減に効果のある病害虫防除、土壌管理技術について記載	11
29	海外向け農産品は有機栽培であることが前提となっており、安定した有機栽培の実現を目指してほしい	輸出を視野に入れた低環境負荷栽培技術の開発について記載	11
30	施設栽培での省エネ技術開発が必要	CO ₂ 削減等に向けた省エネルギー技術の開発について記載	11
31	気象変動に対応した花き（トルコぎきょう）の品種（の紹介）が必要	耐暑性品種の探索について記載	11
32	温暖化を活用したかんきつ類の研究等での品目設定に当たっては、流通業界のニーズを把握して進めてほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の参考とする ・研究ニーズを把握するための研究開発要望の収集について記載 	(11) 16
33	温暖化への対策について情報提供してほしい	温暖化の進行による気象変動や高温に対応した栽培技術の開発、研究成果技術移転の促進について記載	11 17
34	栽培漁業での評価について、内水面と海面の連携した研究が必要	海と河川の資源モニタリングを継続していく旨を記載	12
35	栽培漁業の推進について、重要魚であるアワビの取組を加えてほしい	アワビ生存率向上に向けた取組を追記	12
36	県内森林での獣被害拡大が予想されるため、早急な対応が必要ではないか、モデル地域を設定した現地での実証研究が必要	被害の増加は認識しており、「ニホンジカ等各種病害虫獣被害に対応する新たな技術の開発」の中で個別要望課題として検討していく	13

No.	委員意見内容	対応等	反映 ページ
37	果樹でのスマート農業の取組について技術開発が必要	研究課題、現地実証を実施中（融雪剤散布、気象センサー、環境制御等）であり、さらに取組を進める	14
38	園芸分野でのドローン活用の検討		
39	園芸分野の「ICT、AI等を活用した技術、マルチローターの高度利用」とは具体的に何か		
40	河川での環境DNAの活用を盛り込んでどうか	水産分野に記載	14
3 研究開発の推進			
41	技術開発に当たっては消費者や流通業者等の意見を聞き、ニーズを把握し、生産～流通、消費まで一体となって取り組むべき	研究ニーズを把握するための研究開発要望の収集について記載	16
42	森林研究研修センターについて、木材強度や耐久性などを検査する設備面の強化・拡充が必要	森林分野の研究領域は多岐にわたることから、研究に対するニーズやシーズを幅広く収集したうえで、所管課と検討しながら研究体制の強化・拡充を図りたい	-
43	イノシシやクマによる獣害への対応が必要	他機関との連携による情報提供で対応と記載	16-17
44	様々な課題に取り組んでいることはよいが、農業者から見ると成果が実感できないので、成果の広報を工夫する必要があるのではないかと	技術移転の促進について記載	17
45	人材育成について、研究員数の減少は免れないとしても、技術継承が円滑に進むよう計画的な人材の確保をすべきであり、重要な要素として記載する	計画的な人材の確保について追記	17
その他			
46	「1 II 社会・経済環境の変化」について、各分野で迅速な対応が求められており、とても重要である		1
47	「2 研究開発の方向性」について、現在の課題に対してよくまとまっている		3-15
48	「3 研究開発の推進」について、人材の交流や確保の面では、県内だけでなく、中央の研究機関との連携が重要であると思う		16-18